

11. 大学間連携共同教育推進事業

ーヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクトー

1. 本プロジェクトの背景

文部科学省高等教育局大学振興課より大学改革推進事業の一部として大学間連携共同教育推進事業補助金について平成24年度にあった公募につき、県内19大学・短大・高専で構成している大学コンソーシアム石川（代表 金沢大学）を中心として「行動力や国際力などを身につけた、地球規模の視野を持ちながら地域の課題に主体的に取り組み解決できる、石川と日本の持続的成長に貢献できる人材の育成システムを構築する」（事業名：学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築）目的で応募したところ、同年10月に本事業が採択された。平成24～28年の5ヵ年にかけて大学間連携をとまなう教育カリキュラムを構築していく大型事業である。

本事業の中で、石川県立看護大学は「地域連携グループ」に属している。そのグループの活動を尊重しつつも、保健・医療・福祉にかかわるグローバル人材を育成する教育カリキュラムを構築できないかと考え、学内に担当ワーキンググループを編成し、事業案の検討を開始した。

2. 『ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト』の全体像

石川県における奥能登地域 2 市 2 町は、65 歳人口が 37～40%（2010 年）を占め、今後も高齢化が進んでいく傾向にあり、40 年先の日本を先取りしていると指摘されている。人口過疎地の暮らしと健康を守る担い手として、保健・医療・福祉系の人材の果たす役割は大きいと考える。さらに、その地域で住民の方々が培ってこられた豊かな歴史や文化、暮らしぶりに学ぶことは、人口減少時代を迎えつつあるわが国を支える人材育成につながると期待できる。

そこで、「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」の下、主に保健・医療・福祉系の学生に向けて、人口過疎地域の住民の暮らしや健康課題への対処方法について住民自身に学び、さまざまな地域のネットワークを活用し地域の健康づくりにアプローチできるグローバルな視野を持った人材を育成する学習プログラムを構築したいと考えた。

<平成 25 年度の実施内容>

1. 能登町における民泊実習体験

本プロジェクトでは、学生が地域での活動や民泊などを通して、地域の実情を学び、地域の方々と一緒に健康課題の解決に向けた活動を展開することとしており、平成 25 年度はその試行版としてのプ三段階のプログラムを実施した。

- 1) 平成 25 年 8 月 28 日に能登町内を訪問し、地域の方々との信頼関係を形成するためにショッピングセンター等で健康推進キャンペーンの実施、地域の散策等を実施した。
- 2) 平成 25 年 9 月 21 日に能登町宮地地区にある「春蘭の里」において民泊し、自治体職員から講義を受け、自然の中での山菜取り、それを用いた調理実習（郷土料理）を体験し、翌日は「猿鬼歩こう走ろう健康大会」に参加し、参加者の体力測定と大会運営協力等を体験した。
- 3) 平成 25 年 10 月 12 日に能登町内の民宿に宿泊し、内浦健康クラブの方々から「能登町音

頭」の講習を受けた。また、健康づくりをテーマとした座談会を実施し、その中から健康課題を明らかにする方法論を学習した。翌日は、能登町民運動会にてロコモ度チェック、ロコトレ等を体験した。

2. 海外における地域保健体制を学ぶ研修

夏季休業・春季休業等の期間に、韓国及びタイへ学生を派遣し、グローバルな視野を育成するとともに、日本の人口過疎地への健康支援のモデルとして学び、石川県における取り組みを考える基盤形成を図る。平成 25 年度は、海外における地域保健体制を学ぶ研修プログラムを作成するためにタイ王国ならびに韓国を訪問し、実施可能性の検討を行った。

- 1) 平成 25 年 8 月 27 日から 9 月 1 日にかけてタイ王国チェンマイ大学の看護学部に教員 2 名を派遣し、研修先の地域の視察と今後の研修依頼、研修プログラム作成の打ち合わせを行った。
- 2) 平成 25 年 11 月 19 日から 22 日にかけて韓国の全羅北道庁ならびに全北大学に本学教員 2 名を派遣し、看護学部学部長と地域社会看護教授に「海外における地域保健体制を学ぶ研修（韓国版）」の構築と学生の短期留学の交渉を行った